

色々な国を知ろう

氏名:堀居 真帆

学校名:滋賀県高島市立マキノ南小学校

担当教科:小学校全科

実践教科:学級活動 道徳

時間数: 4 時間

対象学年:1 年

人数:13 人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）：		
<ul style="list-style-type: none"> ・外国の食事について知り、他国の文化に親しむ。 ・日本と他国の文化の違いを知る。 		
【2】 単元の評価 規準例	(ア) 知識・技能	日本と他国の共通点や相違点について考えることができる。
	(イ) 思考・判断・表現	様々な国があり、それぞれの文化があることに気づくことができる。
	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度	他国の人々や文化に親しむことができる。
【3】 単元設定の理由	<p>本学級の児童は、世界には様々な国があることを知っている。しかし、学級、学校内において外国にルーツを持つ児童は在籍しておらず、他国の方、自分たちと違う文化への抵抗が大きい。日本の文化への意識も薄い1年生ではあるが、遠く離れた国の写真を見て、同じところや違うところを見つける活動を通して、親しみを持ち、他国を身近に感じることができるようにしたいと考える。</p> <p>この単元では、食事をテーマにして学習を行う。食事は、子どもにとって身近なものだと考える。普段日本の食事の様子と海外の食事の様子を比べてみることで、「同じだなあ」、「似ているなあ」、「違うなあ」という気づきを大切にしながら学習を進めていきたい。</p> <p>この学習を通し、大きい変容を見ることは難しいかもしれない。しかし、海外では自分が思っている当たり前のことばかりではないこと、同じところもあれば、違うところもあるのだということに、少しでも気づくことができる時間になるようにしたい。</p>	

【4】展開計画（全4時間）			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	○せかいのくから オリンピック・パラリンピ ック（道徳） ・世界にはいろいろな国が あることを知る。	・オリンピック、パラリンピックの写真を 見て、気づいたことを話し合う。	・道徳の教科書 ・オリンピックの写 真 ・世界地図
2	○日本の食事について振り 返る。	・普段の食事を思い出し、どんなものを食 べているのかを考える。	
3 本時	○様々な国の食事を知る。 ・日本と海外の食事を比べ て、似ているところもあれ ば、違うところもあること に気づく。	・写真を見て、気づいたことを交流する。 ・日本の食事と、海外の食べ物を比べて、 似ているところと違うところについて 話し合う。	・写真
4	○タイ、台湾、アメリカ合衆 国、カンボジアの小学校の 様子を知る。 ・小学校の生活の様子を知 り、たくさんのおなじとこ ろ、違うところがあること に気づく。	・それぞれの国の学校生活について知る ことで、自分たちの学校生活との違う ところについて考える。	・写真

【5】本時の展開			
過程時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (10分)	1. 日本の食事について話し合う。	・食卓の写真を見て、普段食べている食べ物を出し合うことで、日本の食事のイメージを持つ。	・写真
	日本と外国の食事をくらべてみよう。		
展開 (25分)	2. アメリカ、ブラジル、フランス、インドの食事の写真を見て、気づいたことを発表する。	・食事だけでなく、その国の雰囲気も意識させる。 ・全体で、気づいたことを交流することで、多くの視点を持てるようにする。	・写真
	3. 日本と比べてみて、共通点や相違点を見つける。	・出た意見を、色分けして整理することで、共通点と相違点を視覚的に捉えやすくさせる。 ・食事の雰囲気の違いに気づき、その中でも同じものを食べているということにも気づかせるように、様々なものに着目させる。	
まとめ (40分)	4. 学習のふりかえりをする。	・考えたことや気づいたことを認めていく。	

【授業実践の様子】（本時での写真を添付し、キャプションをつけて下さい）

日本とにているところ

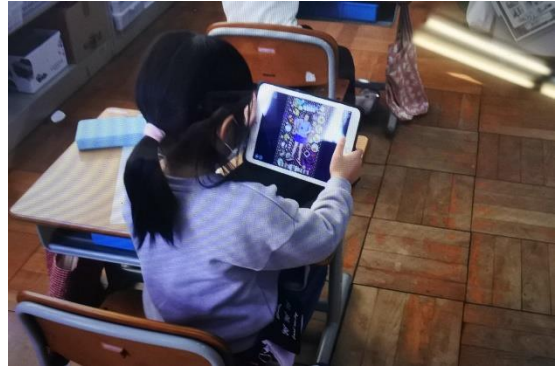
ちがうところを みつけよう!



日本と全然違う!



見つけたことを友達に伝えよう!



【6】 本時の振り返り

アメリカ

- ・ピザ・アメリカンドッグ・ウインナー
- ・パスタ・ポップコーン・りんご・ポテト
- ・好きな食べ物ばかりでいいなあ
- ・食べ過ぎ
- ・お皿がかわいい

ブラジル

- ・バナナが腐っている・魚・足が赤い
- ・野菜が多い・知らない食べ物が多い
- ・体に絵がかいてある

フランス

バナナ・ソーセージ・フランスパン・ヨーグルト

インド

お菓子が多い・赤いものが多い
・ドレスがかわいい・ごはん・

【7】 単元を通した児童生徒の反応/変化

- ・ひこうきにのって、ほかのくにへ行ってみたいです。
- ・インドにいてみたいです。
- ・日本とちがうところがたくさんありました。
- ・メキシコにいてみたいです。
- ・フランスにいてフランスパンをたべたいです。
- ・アメリカにいきたいです。なぜかというアメリカのハロウィンをしたいからです。
- ・日本いがいのひととのちがいがわかりました。
- ・外国の人となかよくなりたいたいです。
- ・フランスと日本のごはんがぜんぜんちがいました。
- ・もっとほかのくににいきたいです。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲があれば記載下さい】

学習前から、教室に世界地図を貼っていた。学習が進むにつれて、世界地図に興味を持ち始める子が多くなっていた。

【授業を通じた途上国・異文化・多文化共生等への意識の変容について記載下さい】

(授業前)

授業の初めに知っている国について聞いてみると、「アメリカ合衆国」、「中国」、「韓国」、「インド」があがっていた。「アメリカ合衆国に行ってみよう」や、「韓国料理を食べに韓国に行きたい」という意見がある一方で、「中国」、「インド」に対しては、「汚い」というイメージが強いようで、行ってみたくないという子が多くいた。

外国語の学習の中で、ALT が住んでいる国のハロウィンの紹介の時には、子どもたちは、日本でのハロウィンの文化しか知らず、文化の違いに対して「変なの」という声が聞こえていた。

(授業後)

海外の食事の写真を提示すると、「全然違う」と、違いに驚いていた。その中でも、じっくりと写真を見て交流を続けていくと、「これは日本にもあるなあ」と、同じところに気づくことができた。

様々な国の食事や文化について知っていく中で、日本での当たり前が海外では当たり前ではないことに驚きながら、「すごいなあ」や、「おもしろいなあ」と、前向きな意見が出てきた。はじめは「汚い」イメージが出ていた「インド」に対しても、「インドの料理を食べたい」という意見が出てきていた。

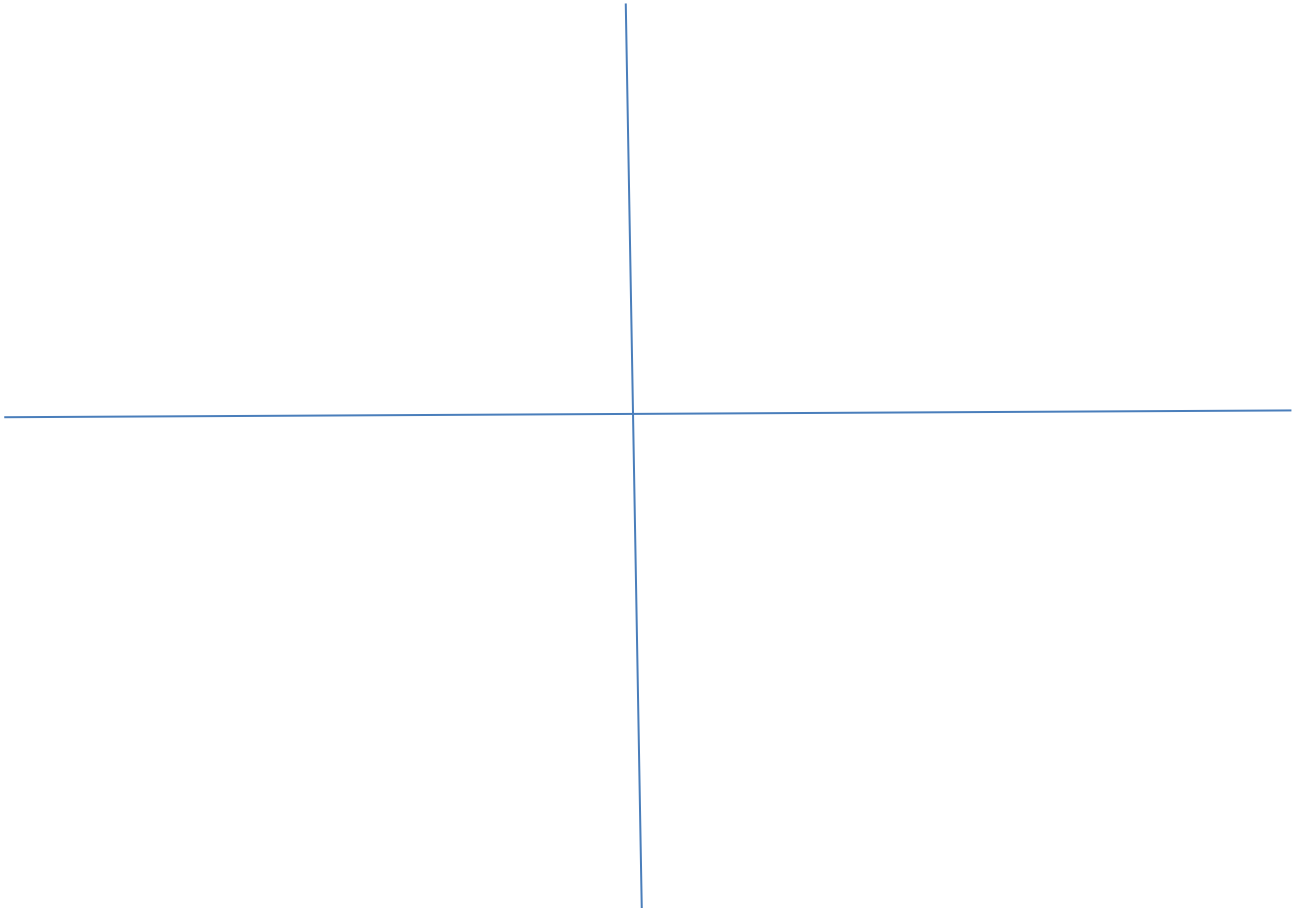
【8】自己評価

1. 苦労した点	写真を見て、気づいたことを伝えることは出来たが、写真を比べて、共通点や相違点を見つけることは1年生には難しかった。「同じ食べ物を見つけてみよう。」「初めて見る食べ物に印をつけてみよう。」と声掛けをすると、「同じところある!」と、気づくことができていた。
2. 改善点	苦労した点でも述べたように、1度にたくさんの情報を与えてしまったので、情報量を絞って、少しずつ共通点や相違点について考えることができるとよかった。時間に余裕があれば、今回の学習で学んだことで、学習を広げられると良い。
3. 成果が出た点	子どもたちは、学習前から外国について興味を持っていたが、この学習をしてから、さらに意識するようになったと感じる。また、海外の文化について、初めて知ることに対して「変なの。」という言葉が聞こえてきていたが、学習が進むにつれて、「違うところがあっておもしろい。」と前向きに文化の違いについて捉えることができるようになってきた。生活科の学習で、日本の昔遊びの学習をしている時にも、「海外ではどんな遊びがあったのかな。」と、海外の遊びにも目を向ける場面があった。 教師自身が撮影した写真を提示し、話をすることで、その時の様子など詳しく話をすることができた。そのことで、「この国に行ってみよう」という思いを引き出すことができたと考える。
4. 備考(授業者による自由記述)	日本と海外の文化が違うように、同じクラスの子どもたちの中でも様々な違いがある。そのような違いにおいても、違って当たり前、色々な違いを受け止めて、認め合えるようにしてけると良い。

添付資料：
ワークシート

いろいろなくにをしろう！

名前（）



きょうのがくしゅうで わかったことをかきましょう。

参考資料：

地球の食卓（2006 TOTO 出版）

世界の子どもたちは毎日何を食べている？写真で見る現実と理想

<https://www.buzzfeed.com/jp/gabrielsanchez/this-is-what-kids-are-eating-1>

世界の家庭料理を比べてみよう！ | 比べてみよう！世界の食と文化

<https://www.meiji.co.jp/meiji-shokuiku/worldculture/culture/>